

国際探究Ⅰ「教養講座Ⅱ①オーストラリア学生との交流プレ講座」

(日時) 平成27年6月18日(木)

(場所) 大体育館

(対象) 1年生全員

(目的) 次週からのオーストラリア ビクトリア大学学生との交流をスムーズに実施するために、オーストラリアの風土と特徴について事前講座を行う。

(内容) オーストラリアの大学生の紹介、オーストラリアと日本の常識の違い(水不足や食などの日常生活の中での違いなどから)、**Inquiry based learning** 等オーストラリアの学生との「国際探究」の準備として上記の質問を1年生に投げかけ、ブレインストーミングをする。

* Inquiry based learning

「探究学習」のこと。学習指導要領(平成21年3月告示)第4章総合的な学習の時間「第1目標」には次のように述べられている。

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己のあり方生き方を考えることができるようにする。

(講師) 国際教養大学 荒木直子 助教
ディーキン大学 Kim Senior 先生

(日程) 11:30~12:30

6月18日に、次週からのビクトリア大学学生(オーストラリア)との交流をスムーズに実施するために、国際教養大学の荒木直子先生、連携先であるディーキン大学(オーストラリア)のキム先生を講師に、オーストラリアの風土と特徴について事前講座が行われました。日本では豊富な水がオーストラリアでは非常に貴重なものだという事実が取り上げられ、生徒たちは世界の広さを感じ、固定観念を打ち破って、視野を広げました。



国際探究Ⅰ「教養講座Ⅱ②③」

(日時) 6月25日(木) 7月2日(木)

(場所) 各教室

(対象) 1年生全員(各クラスごと)

(目的) オーストラリアの大学生と交流、意見交換することにより、自分たちの足元である郷土秋田の農業と食糧の問題から世界や農業大国の問題に目を向ける。

(内容) 日本やオーストラリアの食のレシピを紹介し合うことにより、食材の分布を確認し、食材のグローバル化の現状を把握する。

(方法) 各クラスにビクトリア大学の学生2～3名を配置

(コーディネーター) オーストラリア ビクトリア大学 Mark Vicars 先生 Ligia Pelosi 先生
ディーキン大学 Kim Senior 先生

(講師) ビクトリア大学学生17名

*1C・1D間の廊下壁に学生のプロフィールを掲示

(日程) 14:10～16:00

6月25日(木) 6・7校時

1. 学生の自己紹介(下記のこと言及しながら)
 - ・世界の様々な問題
 - ・オーストラリアで起こっている問題
2. オーストラリアの食について、食べ物のレシピを例にして紹介
3. 秋田の食のレシピを出してもらいながらディスカッション
4. 宿題の提示

6月25日の国際探究の授業では、各クラス2～3名の大学生たちが「世界の様々な問題」「オーストラリアで起こっている問題」について、「sustainable」という言葉をキーワードにし、本校生徒とアクティブな授業が行われました。この日はオーストラリアの大学生から生徒たちには次のような宿題が出されました。

- (イ) 週末(金)～(日)の間、任意の1日を選び、朝食・昼食・夕食の献立を記録する。
- (ロ) その献立の写真またはイラストを描く。
- (ハ) その献立の食材がどこから来ているのかを調べる。

7月2日(木) 6・7校時

本校生徒による宿題に基づいたプレゼンテーション

Presentation

- High school students will practice for their presentation (10 mins)
- They individually present their menu poster in class using target phrases.

Finding distributions of the ingredients

- Using the name stickers with a country or an area of Japan, students will stick them on the world map or a map of Japan.

Discuss findings from the maps

平成27年6月、17名のビクトリア大生（オーストラリア）、そして3名のオーストラリアの先生方と、2週間にわたり本校生徒が交流しました。大学生たちには国際探究の時間だけではなく、英語の授業にも参加していただきました。最初はためらいがちだった本校生徒もやがて打ち解け、休み時間などにも豪学生と生徒たちの間にぎやかに交流が行われました。オールイングリッシュの活動でしたので、少し背伸びした英語コミュニケーション活動は生徒にとってはとても新鮮で、有意義な活動になりました。それと同時に教職を志しているビクトリア大生にとっても、実際の授業の難しさを感じるよい体験になったようです。



【生徒たちの感想】

- ・英語はよくわからなかったけど一生懸命伝えようとジェスチャーや絵などで対応してくれた。次回が楽しみ。
- ・今日の授業では、オーストラリアの大学生との授業が一番楽しかった。
- ・ビクトリア大学生の言っていることが全くわからなかった。英語をしっかりとやりたい。
- ・オーストラリアの学生の方々が来ていて毎日が楽しいです。たくさん会話して仲良くなれてうれしい。でも明日は送別会なのでさみしくなる。今日のSGHの活動でもたくさん話して、話を聞いて理解できあえたのでよかった。
- ・英語の時間や国際探究の時間にオーストラリアの大学生と活発にみんな交流していた。自分の考えを英語で伝えようと一生懸命にジェスチャーを交えて会話していた。
- ・今日はビクトリア大学の学生との最後の交流でページ先生とも最後だった。悲しかった。でも交流を通じてオーストラリアのことについて学べた。とてもいい経験だった。